

# のになんで新聞

vol. 3

## 加須市旧騎西高校で活動する被災者支援ボランティア福祉班を直撃取材!

目の前に家があるのに、帰れない  
——そして、ここで生きている

私たちは、帰りたい気持ちがあることを決して忘れないよ

被災者支援ボランティア福祉班

1月26日  
(木) With You  
さいたまにて、  
こども夢未来  
フェスティバル  
で行うトーク  
セッション

話を聞いてみると、今回この企画を行うにあたって、それぞれの「このトークセッションをやりたい」その思いが伝わってきた。ほんの一部ではあるが、心にとまったお話を紹介したいと思う。

とこらだったんだよ。って、帰りたいけど帰れない、消えない気持ちを抑えていらつしやるのを感じた。双葉のことを一緒に忘れられない、あなたの帰りたい気持ちを忘れられない。——

「震災から一年、あなたのことを忘れないう」の企画会議が行われた。それぞれに持ち寄った、活動のエピソード。震災があつて、どんな気持ちでさいたまスーパリアリーナに向かったか、旧騎西高校での活動で心に残る出来事などをそれぞれに語るところから始まった。

【末吉一美さん】「活動している」と本当はどう生きたいか、ではなく、この状況だからこう生きなきゃいけないという思いを感じる事がある。それはとても辛いこと。わたしは、町民の人たちに、こう生きなきゃと、思わせるのではなく、一緒に生きていきたいと伝えたい。」

【高野慶子さん】「町の人が怒り・しんどさをまっすぐぶつけてきてくれたこと。介護職でやってきた自分。福祉班の皆とやるようになって、町の人たちと関わるなかで、「支えたい」から「その人の気持ち」を「わかりたい」に変化してきた。お昼を一緒に食べる(食欲のない人や病態食の人)・洗濯同行・買い物同行・お風呂介助など、相手との関係を作りながら一緒にやること、その人の意欲や支えにつながることを、共に生きること等の大切さを実感している。」

【八重樫裕子さん】「必要なことは、生きるための衣食住だけじゃないように思っている。それぞれの問題が震災で露わになった。家族の関係やカタチが変わってきたり、通い合えていた感じがなくなったり、それは本人同士だけの問題じゃないように思っている。」

### 7千のになんで事件簿

「ママ、しゃべっちゃダメ!」

母親たちが、話し合いをしていると必ずといっていいほど起こる光景がある。話そうとする、もしくは話していると、トコトコやってきて、口をふさいで、「ママしゃべっちゃダメ!」3~6歳くらいまでの子どもたち。「おかあさん、今お話ししたいよ。話させてよ。」「ダメ、せ〜ったい、ダメ!」



写真: 母たちの企画会議



写真: 旧騎西高校内・福祉班傾聴後のミーティングの様子

だから、このトークセッションをやりたい。」  
当日は、双葉町民の方も参加してくださいませ。みんな一緒に生きたい、これからも一緒に生きていきたいから、その願いがあるから、このトークセッションをするのだと、感じました。会議から数日後、コーディネーター渡邊寛さんからも思いを聞くことができました。「いろんなことを抱えて生きている人がいるということーどんなことでも聴きたい。聞えてこない事がたくさんあるー聞えない声をそのままにしない。私も一緒に、声を聴き考えていきたいと感じています。(中泉 理奈)」

【こども夢未来フェスティバル2012 小ホール 13:30~15:30 トークセッション】  
「震災から1年、あなたのことを忘れないう」

## 企業の部屋

子ども達に親や学校の先生以外の大人と話をしたり、工作などをしながら一緒に遊んでもらえるといいなあ。と思っ様々な会社の方たちに集まってもらいました。子ども達の思いや気持ちに伝えられる大人でありたいと思うのです。(きりはらようこ)

【企業から】

親子の絆、地域の絆、未来への絆。

子どもたちと一緒に、たくさん体験や発見をして、思い出を築き、絆づくりのお手伝いをしていきたいと思っます。今回、紙相撲を通じて「つくる・あそぶ・語り合う」楽しさを、たくさんのおともたちへ。

そして、「きらきら、ワクワク、ドキドキ」する感情を大切に育ててあげたいです。(絆アベニュー望月印刷)

私たちはプラスチック製食品包装容器メーカーとして地域社会貢献の一環で工場見学を受け入れや県内の小中学生を対象に「リサイクル」「プラスチック」の事前授業を行っています。今回は子どもも夢未来フェスティバルへ初参加いたします。今回出展する「食品トレーリサイクルの紹介」や「プラスチック化学実験」「キーホルダー作り」が子どもたちにとっていろいろなモノゴトに興味を持つきっかけの1つになれば幸いです。(中央化学)

## 子ども電話じゃない相談室

電話じゃなく、その場でどんな質問にも答えます！マンガって、どうやって読むの？どうして仕事するの？宇宙の果てってどこ？恐竜の種類ってどのくらい？ウンチってどうして茶色なの？なんで人は涙が出るの？赤ちゃんを産むのはなんで女の人の？などなど…みんなの質問に、マジで答えます！質問があるみんな、あつまれ！答えたい子どもも大人もあつまれ！(知りたいを応援するステーション)

## リトルシェフ

お家の人がお出かけしてたって平気！とびっきりの美味しいご飯をつくって食べちゃおう！3人の料理人が、得意の技を教えるよ。教わるだけじゃなく、プロと料理対決もしちゃうかな？

【シェフたちから】

包丁での作業や実際に鍋を使うなど、一緒に体験して頂きたいと思っます。お肉の半生状態などの状態を実際に知ることも大切な経験かと思っます。何より食の楽しさをテーマにやらせていたければ嬉しく思っます。(パレスホテル大宮 毛塚智之)

夢・未来いっぱいなこともたちへ——  
楽しく作って心もおなかも満足でおいしい時間にしませうネ！(じやんこ)

今回の機会に料理を作る事の楽しさ、美味しく作れた時の喜びを知ってもらいたいと思っます。(加藤一彦)

【リトルシェフから】

ハンバーグは自分で作ったことがないの。自分で作ったハンバーグが、どのくらいおいしいか食べてみたいから申し込みました。あつでも、他の子が作るクレープも食いたい。作るのも、食べるのも楽しみ☆  
(9歳・れいか)



## DESIG Walker

「耳マークの人を探せ!!」館内にいる耳マークの人を探してみんなの質問の答えを聞いてきて！答えをたくさん集めて欲しいカードを手に入れよう!!

ゲーム世代の子どもはクオリティーがないゲームにはチャレンジしようと思っませんよ。ゲームが好きだから、わかるんです。おもしろいゲームにします！(パウンドケーキをこよなく愛するゲーマー・仙田)



## みんなで体験できる 鉄道イベント

私が育った家からは列車が通るのが見え、朝の目覚めも夜眠るときも列車の音を聴いて育ちました。ブルートレインや、特急が通ると遠い地を想像して旅した気分になったり、幼稚園の頃、父親の単身赴任への出発を車で見送った時のキモチ等々…。私の思い出や、未来への夢や希望と共にいつも鉄道が側にありました。そんな子ども頃の気持ちも思い出しながら鉄道の部屋を企画しました。  
(鉄道大好き・すえきち)

当日は、石炭で走るミニSLに乗れたり、なりきり撮影会、新幹線E5系はやぶさのペーパークラフトがあるよ！

1F小ホール入り口となりではパネル展示で、1、2歳から行く「鉄道博物館」を開催！子どもも流れてはくの楽しみ方を紹介します！遊びに来てね！

## 子ども☆夢☆未来フェスティバル2012 実行委員会のひとコマ

夢未来の実行委員会には、毎回たくさんの方たちが参加されます。

この日は、当日モールドコンサートを行う吉武大地さん(クラシック歌手・さいたま観光大使)が、歌で自己紹介をされました。

最後には、実行委員みんなで合唱し、夢未来当日に向けて、思いを確かめました。



あたちに捧げる歌??



子ども☆夢☆未来フェスティバル  
気持ちを声に、思いをカタチに——していく者たち  
あなたの声、あなたのやってみたいことは何だろう。  
聞かせて欲しい。一緒にやろうよ。

### 3つのリボンの部屋



オレンジ、パープル、ピンク、3つの色のリボンのことは、私の毎日の生活の中にかくれている。子育てを頑張ろうとすればするほど、理想と現実のギャップの中でイライラしてしまう日々……。子どもに手をあげたくないと思いついていたら、気づかぬうちに足が出てしまった自分に愕然とした。自分の中にこんな憤りがあることに、それがこんなに簡単に表に出てきてしまうことに驚いた。ニュースの中の虐待も、他人事ではないと感じた。毎日崖っぷちを歩いているように思っていた。

夫とは、養っている＝養われているという関係の中で、家のことがきちんとできなければ外に出るなどと言われることに抵抗できずにいる自分。きちんとなどできるわけもなく、そこそこに出かけてしまうのだけれど、いつもどこかビクビクとしながら生活している。相手の一言で自分の自由がなくなるかもしれない。という怖さを感じながら。そんなしわ寄せが子どもにも影響を与えてしまっていることも知っていないながら……  
自分の身体のことをいつも後回しにしてしまう。検診……受けなくてはと思いながら受けられていない。なのに、時々もしも今病気とかが発覚したらきつとすぐ後悔するのだろうかと不安になる。やっぱり自分のことも大事にしなくては、子どもたちもそれを望んでくれているのだからと思う。

言えずにいたこともたくさんあり、私のことも話してみようと思っている。あなたのこと聴かせてほしい。言葉にすることから一緒に始めてみたいと思う。

(リボンの部屋にいる私)

### パンクレディーをおぜろう!!

UFO!!パンクレディー世代ではない私だけど、パンクレディーの歌を聞くと、体が動いてしまう。ダンスってやったことないけど、パンクレディーを踊ってみたい。人前でダンスって恥ずかしいと思う?でも平気!

みんなダンスは初めてだから。  
一緒に踊ろうよ!下手だっていいじゃない。間違えたっていいじゃない。とにかく踊ろう!!  
思いつきり、体を動かしてみよう!  
うーリズムに乗ってみよう!  
(SPEED世代・つっちー)



### 音楽・モールなど

モール&カフェ 音楽&ロジエクト  
全館に音楽やアクションがいっぱい!!

今年の本館3Fが「カフェ」になります。美味しいケーキとお茶でくつろぎながら、ゆっくりと音楽を楽しみませんか。世界でも珍しい鼻笛演奏や、リコーダーの合奏、ギターの弾き語り、手話ソングやペーパーアートなど、大人にも子どもにも嬉しい空間になります。また、宿泊棟4F癒しの空間のロビーでは、ボサノバの生演奏が……。おしゃべりしたり、癒されたりした心と身体にボサノバのリズムが心地良さそう。

1Fモールのステージはパワフルに……。バンドや歌、キッズダンスにレンジャーショーなど盛りだくさん。お屋には吉武大地さんのミニコンサートとマタニティウェアのファッションショーも!!ママモデルの変身ぶりや華麗なウオーキングをぜひご覧あれ♪みんなで「パンクレディー」や「マルマルモリ」も踊っちゃおう。フィナーレには、会場みんなの声を響かせて一緒に思いっきり歌いたいな♪

(歌うことが大好き・せきまさみ)

### ママニティファッションショー

「MAMA'S HAPPY LIFE」

気がつくとも子どものお洋服ばかり買ってしまっは、いませんか?ママは自分のおしゃれや楽しみを後回しにしてしまいがち。だからこそ、ママだって、自身を人生を楽しもう!!というメッセージをファッションショーに込めました。「Lyrique」のお洋服も、ママという枠にとらわれないカワイイさを追求していません。ママだからこいうでなくちゃいけない、という殻を、まずファッションから一緒に破ってみませんか!?

(Lyrique)

### 癒しの空間

メイクできれいになりたい!  
ネイルで指先にうっとりしたい!  
アロマでいやされたい!  
マッサージでほぐれたい!  
できればお安くできたらうれしい!  
子どもとは離れてひとりゆっくりしたい!!  
とっても欲ばりな私ですよ

でも私だけじゃないはず。みんな、フルコースで一日すごしたいよね!?  
一人の願いをかなえるために、どうできるかな?って考えたら、ゆめみではそれができる!と思えた。

(かよっぺ さくら がし☆)



### シングルマザーのサロン

シングルマザーの方、シングルマザーになることを考えている方、一緒に話したいです。

わたしらしく、自信を持って自分の人生を生きたい。こう、生きていける!と思える時間になりたいです。

家族のカタチわたしと子どもたち。これって普通でしょ。サロンの間、子どもたちは保育。それぞれに大事な時を過ごそう。

(ヒトリミナカマ)



# それは、赤ちゃんの泣き声から始まった：

今やれることを、やるんだ。

—子どもが生まれた時、自分の意思とは関係なく、

毎日が押し寄せてきた—

震災であたりまえの生活から放り出された

人々の「大変」を思った……………

鈴木玲子

## 《第三回》

昨日の午後には、双葉町から50台のバスで1200人がアリーナに到着しています。

そんな状態の人がいるのか、その情報が一刻も早く必要だと思っていました。しかし、ボランティアセンターの朝の会議では、お弁当がいくつ入るといふことだけでした。やはり、自分たちでどんな人が



いるのかを確かめなければと  
思いました。

「保育班」という看板を目にして、助産師さんや保育士さんが集まり始めていました。その方たちに集まってもらい、2階、4階、5階の3チームに分かれて、聞き取りシートを持って住居スペースを回り避難してきた方たちの声を聞いてきました。

靴がない男の子がいたら、山のような物資の中から探します。ミルクを作。ホットが必要と、助産師さんと保育士さんがアリーナの中に給湯コーナーを数か所設置して、その管理を引き受けてくれました。

子どもたちがアリーナの内外で過ごせるように、遊びのボランティアは「みんなの夢の音楽隊」と県立大の学生さんが中心となって、アリーナの近所にお住まいの方からは、



自分の家で洗濯を引き受けようとして沢山の申し出があり、洗濯を頼みたい方と引き合わせる洗濯マッチングチームもできました。

巡回したメンバーが、子どもを預かってほしいという希望を聞いてきました。聞いてきたメンバーは預かってあげたいと言います。でも、ボランティアセンターの決まりとしては子どもの預かりはしなうと言われています。「どうしよう、何かあったら責任を問われることだ」と私は悩み、話しを聞きに行きました。おじいちゃんが入院して、今日の午後お医者さんの説明を聞きに行かなければならぬのだけれど、6歳の息子を昨日行った WithYou に置いて

ていきたいとのことでした。断ったとしても、置いていってしまおうように思いました。

午後、巡回する前のミーティングで「預かりはNOと言われないです。だけど私は預かりたい。誰か預かってくれる人はいませんか」と聞いてみると、ひとり、子どもを連れてくる方が「やります」と手をあげました。もうひとり若い保育士さんにも頼み、こども2人、おとな2人ずつの4人で夕方まで一緒に遊んで過ごすことができました。

やりますと言って引き受けられる人がいた、それが子連れの人だった。子どもがいなくてもできないのではないんだよね。子連れで活動している彩の子ネットのチームづくりが役に立ったなあと思つたことでした。(つづく)



## 編集後記

中泉 理奈

震災から一年「最近、「孤立死」のニュースで涙が流れた。立川市母と4歳の子、北海道の姉妹、そして、とても近いさいたま市北区の親子。いずれのケースも、誰にも気にかかれずに死んでいってしまった。誰かが気にかけてさえいたら、助かった命……

震災後、「絆」「地域のつながり」というような言葉を耳にするが、実際はどうなんだろう。言葉だけがひとり歩きしていないだろうか。

こども夢未来フェスティバルでは、みんなで一緒に生きていきたいという願いがあり、「〇ッ！ひとりっのいのち」から「助けて」と言い合える関係、どうしているかな？と気にかけて合える関係ができていくことを実感し、「孤立死」とは無縁のネットワークができるかもしれないと感じた。次回は、『子どもを知る』をテーマに、子どもたちからのメッセージをお届けしたい。

ご意見・ご感想をお寄せください。また、掲載希望記事もお持ちしております。(掲載要相談)

「のに、なんで新聞」

平成24年2月28日発行

発行 vol.3

編集人：中泉理奈

発行人：鈴木玲子

発行所：NPO 法人彩の子ネットワーク

〒362-0017

埼玉県上尾市二ツ宮 1156-3

TEL：048-770-5272 FAX：048-770-5270

E-mail：office@sainoko.net

HP：http://www.sainoko.net/